

## 特別史跡 遠江国分寺跡

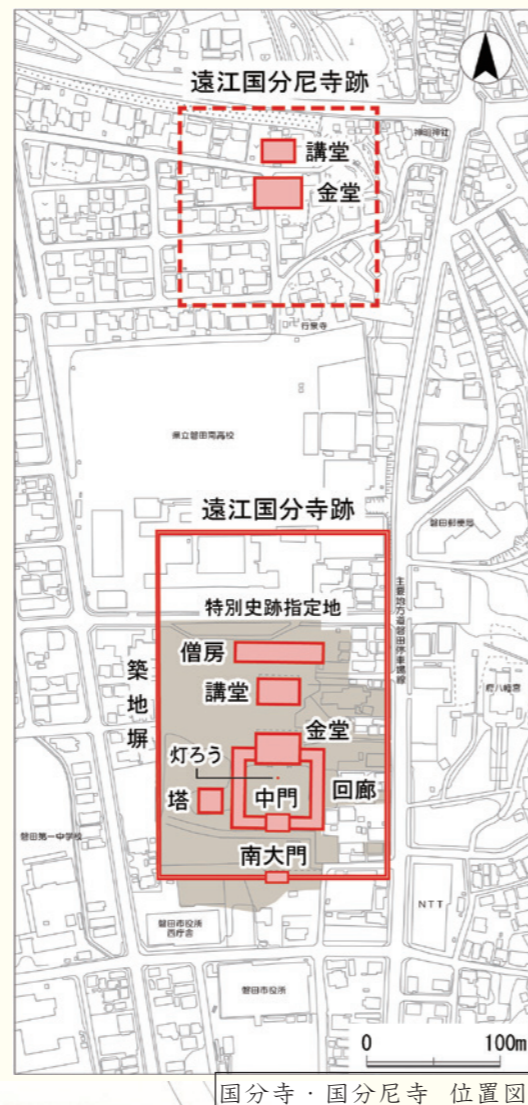
天平 13 年 (741)、聖武天皇は仏教の力で当時の社会不安を取り除こうと、全国に国分寺と国分尼寺を建てるように命令しました。

遠江国では、当時国府（現在の県庁にあたる役所）があった磐田の地に国分寺と国分尼寺が建てられました。

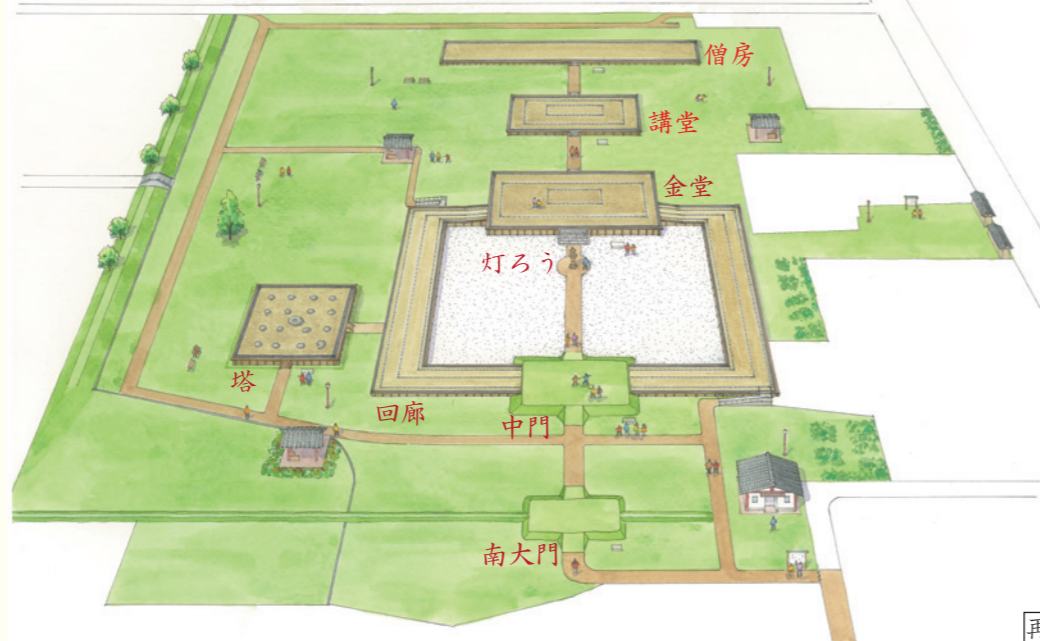
遠江国分寺は災害や時間の経過により、その建物を失いましたが、地下にはその痕跡が残されており、大正 12 年 (1923) には内務省（当時）から史蹟保存地として指定されました。昭和 26 年 (1951) に実施された発掘調査（第 1 次調査）では、遠江国分寺の金堂や講堂、回廊などが発見され、全国の国分寺の中でも初めて主要な建物の配置が明らかにされました。この成果から翌年 (1952) には、国から特別史跡に指定されます。昭和 40 年代には、全国の国分寺に先駆けて史跡整備も行われました。

その後、平成 17 年度より遠江国分寺跡では、再び整備事業が進められています。再整備に伴う発掘調査により、遠江国分寺は南北 259m、東西 172m の範囲が築地塀によって囲まれており、その中に木装基壇を有する金堂や塔、講堂などが建ち並ぶことが明らかになりました。

また、金堂の正面には木製の柱をもつ灯ろうがあったことも発掘調査で判明しています。



国分寺・国分尼寺 位置図

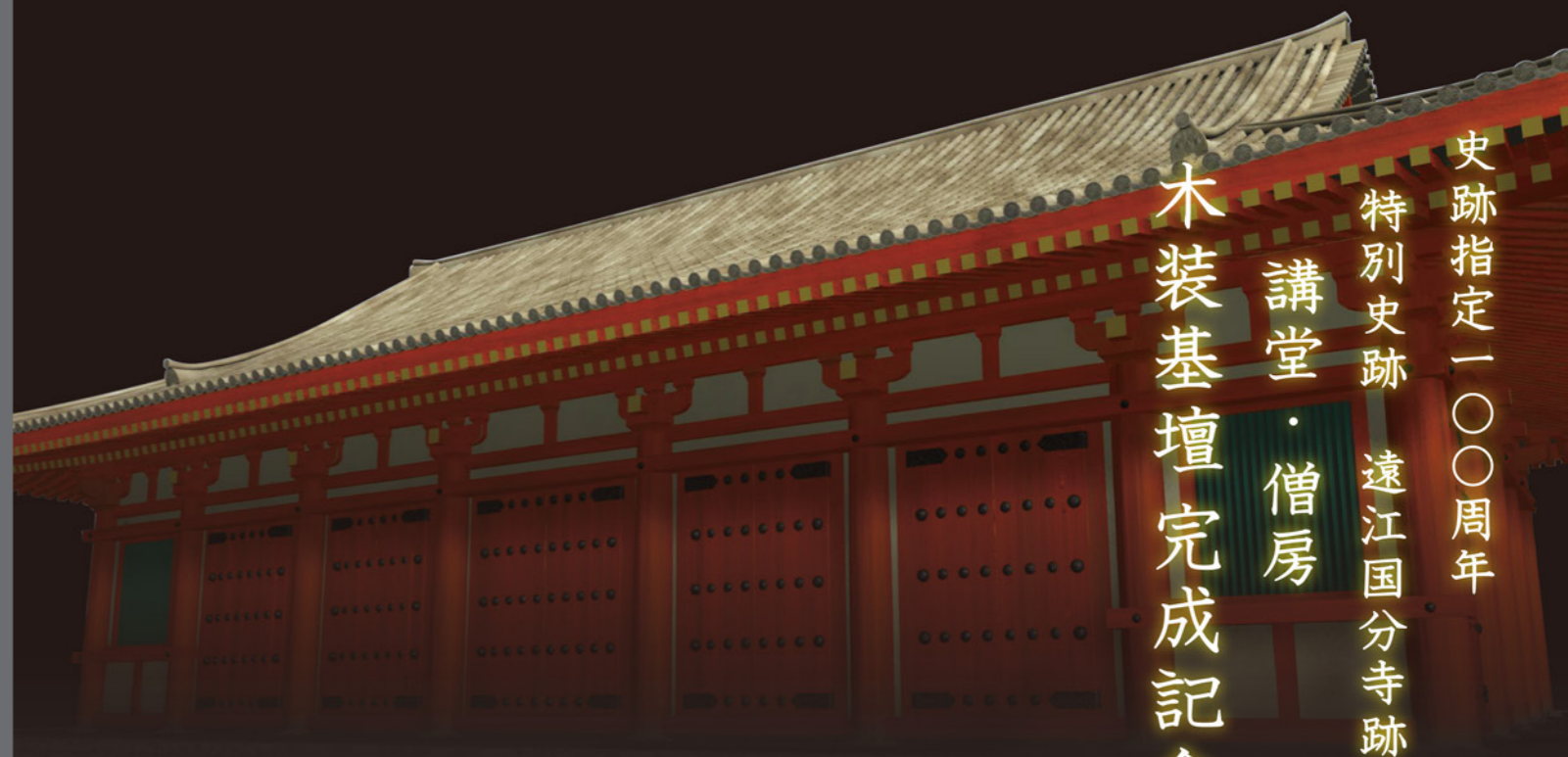


再整備イメージ図

最新の調査・研究成果に基づき、磐田市では平成 28 年度に『整備基本計画』を策定しました。計画においては、地下に眠る遠江国分寺の痕跡を保存し、次世代に継承していくことを大前提としつつ、かつて遠江国分寺がこの地にあったことを体感できる史跡整備を目指しています。

その方針の下、令和 3 年度より現地にて整備工事に着手し、令和 4 年度には講堂と僧房の木装基壇が完成しました。来年度以降も引き続き、金堂や塔、回廊などの整備を行っていく計画です。皆さまには、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、完成を楽しみにお待ちしております。

令和 5 年 4 月 1 日 磐田市教育委員会 教育部 文化財課



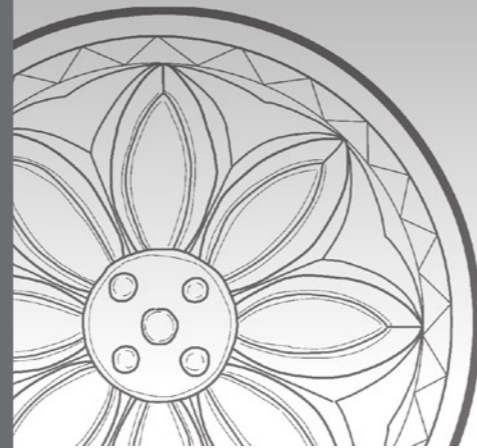
史跡指定一〇〇周年

特別史跡 遠江国分寺跡

講堂・僧房

木装基壇完成記念見学会

奈良時代  
 仏教で国を護るため  
 全国に創られた国分寺。  
 それが磐田にもあった……。



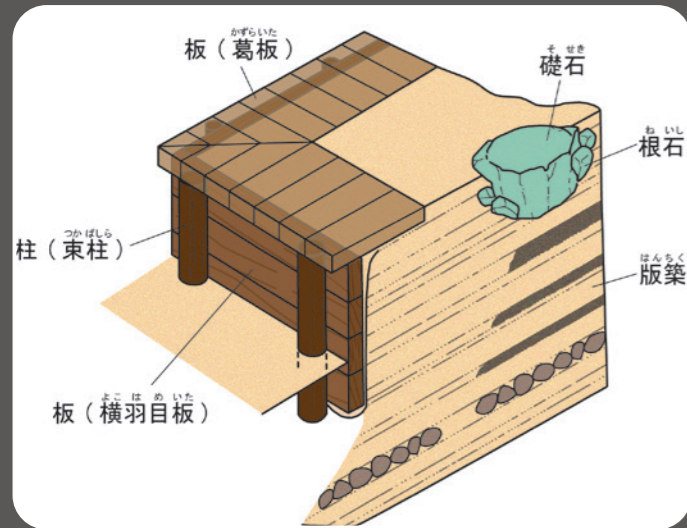
※イラストはイメージです。復元は講堂と僧房の土台にあたる木装基壇のみおこなっています。

もくそうきだん  
木装基壇

発掘調査の結果、遠江国分寺跡では金堂や塔、講堂、僧房などで基壇外装に木材を使用していることが判明しました。

再整備事業では、発掘調査成果に基づき、その規模や構造を復元しています。

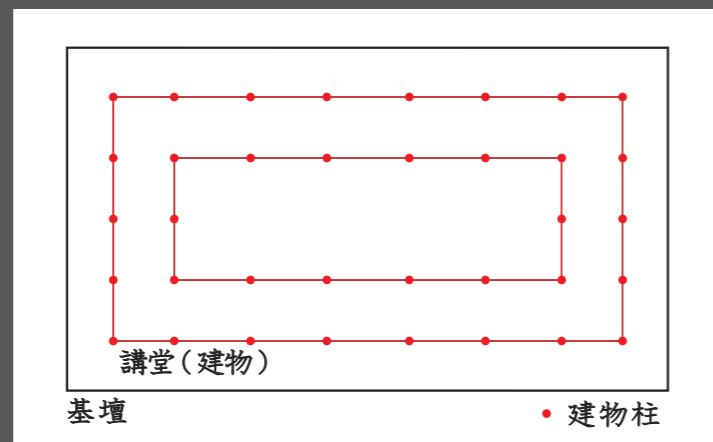
- 葛板：幅30cm 長さ90cm 厚さ9cm
- 羽目板：幅30cm 厚さ9cm
- 束柱：直径20cm
- 素材：ヒノキ（液体ガラス含浸）



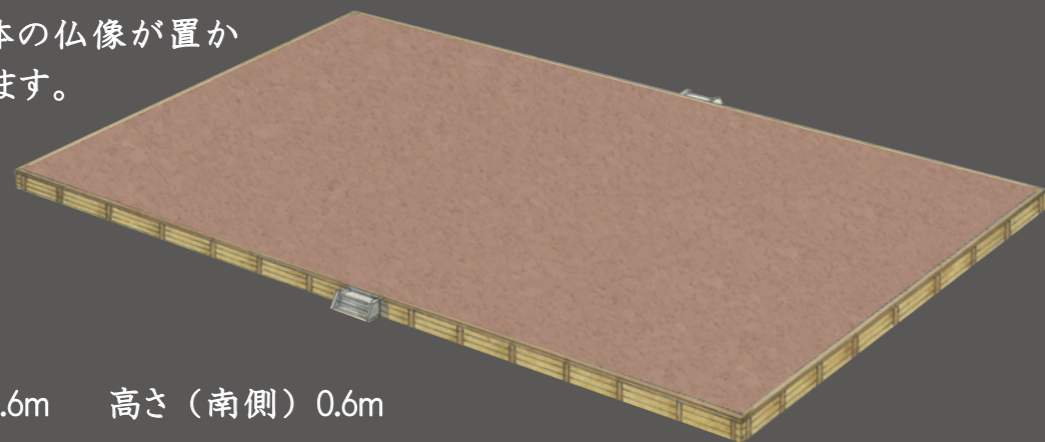
こうどう  
講堂

僧が経典を学んだ建物です。発掘調査では東西29.2m×南北16.6mの木装基壇が発見されました。地面を掘り込んだ後、版築（土を層状に突き固める作業）を行って基壇を造成していることも判明しています。

また、『朝野群載抄』には11世紀の遠江国分寺に関する記述が残されており、それによると東西24.7m、南北11.8mの建物があったそうです。堂内には高さ4.8mの阿弥陀像など8体の仏像が置かれていたことも記されています。



間取り推定図

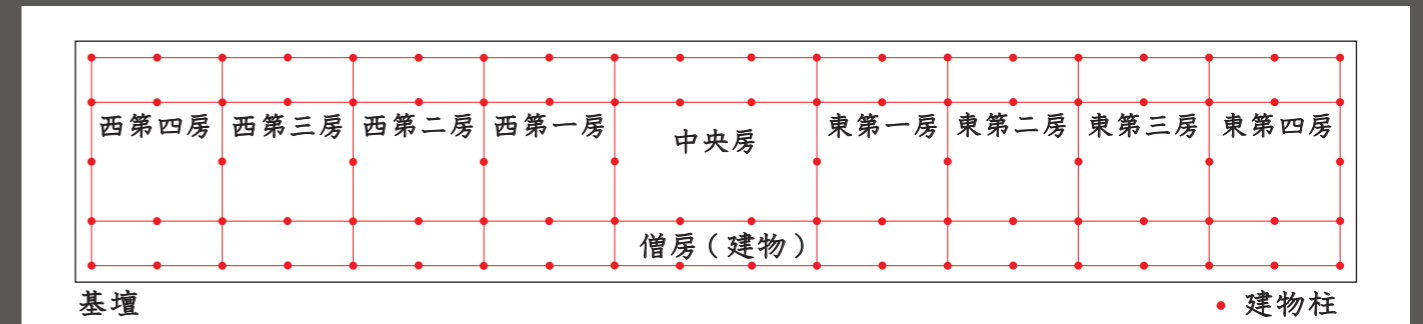


復元基壇：  
東西29.2m × 南北16.6m 高さ（南側）0.6m

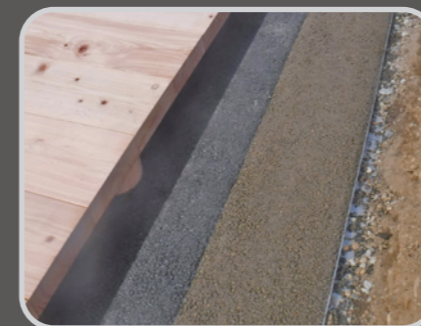
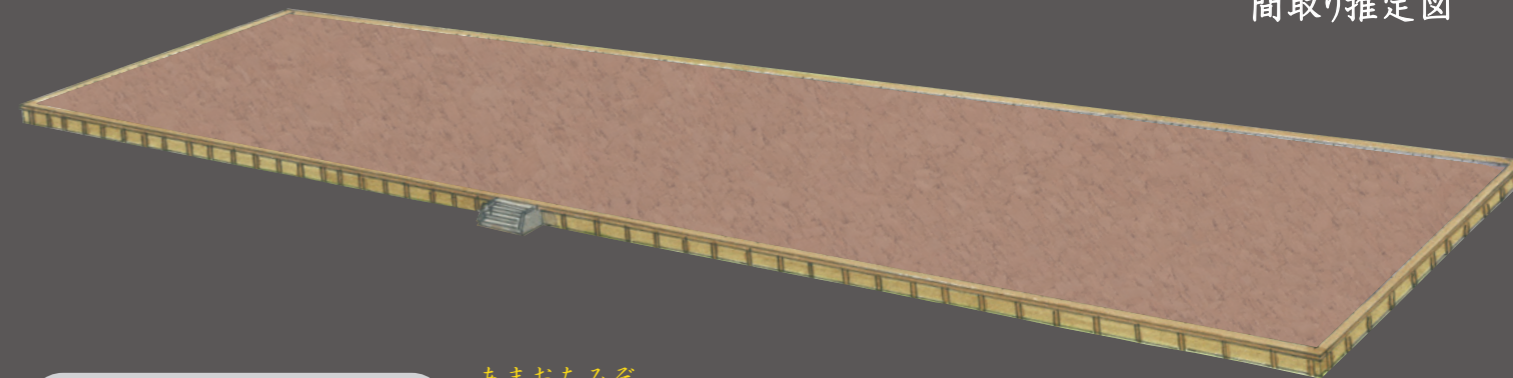
そうぼう  
僧房

僧の寄宿舍です。発掘調査の結果から、東西63.8m×南北12.0mの長大な基壇であったと推測されます。また、柱を支える礎石を据えていた痕跡も見つかり、そこから当時の間取りを復元すると下図のようになりますと推測されます。天平13年(741)に出された「国分寺建立の詔」によると、国分寺には20人の僧を置くように命じられています。遠江国分寺では、20人の僧がこの建物で生活を送っていたと考えられます。

復元基壇：東西63.8m × 南北12.0m 高さ（南側）0.3m



間取り推定図



あまおちみぞ  
雨落溝

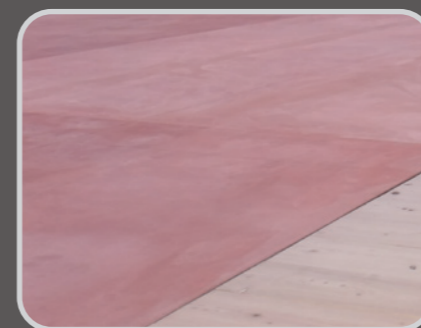
基壇の周りには雨落溝（屋根から垂れる雨水を受ける溝）が巡っていました。僧房や講堂でも、発掘調査でその痕跡が確認されています。令和4年度の再整備事業では、僧房の雨落溝をアスファルト舗装にて表示しています（左写真：舗装茶色部分）。講堂の雨落溝も引き続き整備していきます。



階段

講堂や僧房では、残念ながら基壇に上がるための階段は発見されていません。しかし、基壇のどこかには階段が設けられていたものと推測されます。

再整備事業では、復元基壇にあがるための階段を設置しています。階段に使用されている石材は、過去に講堂などの基壇位置を表示していた石材を再利用しています。



基壇上面

かつては基壇の上に建物があり、その柱を支える礎石が配置されていました。しかし、残念ながら年月の経過とともに建物や礎石は既に失われてしまいました。

再整備事業では、講堂と僧房の基壇上面を透水性の高いスラグ舗装にて整備しています。